

2022 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2022 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。なお、2022 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

人文科学研究所は 2022 年度において 3 つの重点プロジェクトと、7 つの研究助成プログラムを組織し、人文科学・社会科学の深化と刷新を試みた。各重点プロジェクトは、それぞれ(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」、(2)「現代における間文化現象学の新展開」、(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」をテーマに研究を行っている。(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」においては、当研究所内で 50 年余りの歴史を有する近代日本思想史研究会が中心となり、中期的テーマを設定し研究成果を蓄積している。(2)「現代における間文化現象学の新展開」においては、現代社会と人間を解読するための哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角を模索し、人間科学に関する学際的な研究を積極的に蓄積している。(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」では、東アジア地域に焦点をしばり、各地域の特徴や動態を明確にするべく、「東アジアの福祉レジームと市民社会」を考察すると同時に、グローバルな移動(mobilities)によって特徴づけられる世界が有するに至っている課題と可能性を浮彫にするべく、「グローバルな移動(mobilities)の中の世界」を考察している。そうして、これら両側面を有機的に結びつけながら、総合的・豊穡な研究を実現しつつある。

研究成果の発信と社会貢献

上記の長期目標をふまえて 2022 年度においては、以下のような研究成果の発信と社会貢献を具体的に行った。

まず(1)「近代日本における「近代の危機」認識に関する研究」(代表:小関素明)では計 6 回の研究会を開催し、単著 4 冊、共編著 1 冊の計 5 冊に及ぶ書籍を刊行した。また 8 本の論文が『人文科学研究所紀要』133 号に個別論文として掲載された。いずれも当該分野の研究に一石を投じる意欲作であり、『人文科学研究所紀要』の社会的認知度と高め、学外の学術雑誌を凌ぐ高い評価を得ることに寄与するものであった。(2)「現代における間文化現象学の新展開」(代表:加國尚志)では、「ダリ・テネフ講演会「指標性が持つ様相の謎——デリダとハイデガーにおける指標についての読解」(2022 年 11 月 4 日、衣笠キャンパス)」「エマヌエーレ・コッチャ講演会「All we need is love」(2022 年 11 月 29 日、衣笠キャンパス)」「シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか」(2023 年 3 月 25 日、衣笠キャンパス)と、3 回にわたって海外からの招聘による講演会やシンポジウムを開催し、積極的な活動をおこなった。また、『立命館大学人文科学研究所紀要』132 号において特集号を企画し公刊した。(3)「グローバル化と地域の多様性(diversity)」(代表:遠藤英樹)では、国内外で 15 回の講演会・シンポジウム・ワークショップ・研究会を開催した。特に国際シンポジウムでは、「International Symposium: The Governance of Science and Technology, and International Cooperation」や、立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力活動の中で「モビリティーズとデジタル革命」「『モビリティーズとデジタル革命』の新たな社会理論」を開催した。また、『立命館大学人文科学研究所紀要』134 号においても特集を組み公刊した。

若手研究者の支援

人文科学研究所では本年度も、読書会、研究会・ワークショップにおける発表、調査・フィールドワークなど、多様な機会をとらえて、若手研究者の育成をはかってきた。具体的には若手研究者自身がワークショップをコーディネートできる機会を提供したり、若手研究者育成を目的に国内外の最新業績を批判的に検討する読書会を開催したりした。さらに博士後期課程に在学する大学院生に対しても、積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供するとともに、現地調査・フィールドワークを実施した。その具体的な成果として、本研究所から育った若手研究者が大学教員の職を得たり、他研究機関の研究員に採用されたり、民間財団の研究助成に採択されたりしている。

以上、2022 年度の研究活動においても所期の目的を順当に推進できたと言える。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2023年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	遠藤 英樹	文学部	教授
運営委員	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授
	川村 仁子	国際関係学部	准教授
	市井 吉興	産業社会学部	教授
	小関 素明	文学部	教授
	加國 尚志	文学部	教授
	亀井 大輔	文学部	教授
	神田 孝治	文学部	教授
	白戸 圭一	国際関係学部	教授
	本田 稔	法学部	教授
	山本 理佳	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	ウェルズ 恵子	文学部	教授
	花崎 育代	文学部	教授
	長尾 伸一	産業社会学部	客員教員(教授)
	石崎 祥之	経営学部	教授
	園田 節子	国際関係学部	教授
	渡邊 松男	国際関係学部	教授
	漆原 良	産業社会学部	教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	櫻井 純理	産業社会学部	教授
	日暮 雅夫	産業社会学部	教授
	江口 友朗	産業社会学部	教授
	石田 雅芳	食マネジメント学部	教授
	高田 剛司	食マネジメント学部	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	加藤 政洋	文学部	教授
	北尾 宏之	文学部	教授
	伊勢 俊彦	文学部	教授
	林 芳紀	文学部	教授
	井上 充幸	文学部	教授
	萩原 正樹	文学部	教授
	河原 典史	文学部	教授
	越智 萌	国際関係学部	准教授

		小林 ハッサル 柔子	グローバル教養学部	准教授
		竹中 歩	グローバル教養学部	准教授
		前川 一郎	グローバル教養学部	准教授
		羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授
		駒見 一善	国際教育推進機構	准教授
		住田 翔子	産業社会学部	准教授
		鈴木 崇志	文学部	准教授（任期制）
		龍澤 邦彦	国際関係学部	特任教授
		谷 徹	文学部	特任教授
		前田 一馬	文学部	特任助教
		夏目 宗幸	文学部	特任助教
		勝村 誠	政策科学部	特命教員（教授）
		横田 祐美子	衣笠総合研究機構	助教
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	有村 直輝	文学部	初任研究員
		十河 和貴	立命館アジア・日本研究機構	初任研究員
		古 文英	立命館大学文学研究科	初任研究員
		松田 智裕	衣笠総合研究機構	専門研究員
		宮下 祥子	衣笠総合研究機構（産業社会学部）	専門研究員
		山口 一樹	衣笠総合研究機構（文学部）	専門研究員
	② リサーチアシスタント	蛭子 良風	文学研究科	博士課程後期課程
		查 雨萌	文学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	松原 大介	文学研究科	博士課程後期課程
		鷺尾 涉	文学研究科	博士課程前期課程
		伊故海 貴則	文学研究科	学振特別研究員 DC
		五十嵐 美華	国際関係研究科	博士課程後期課程
		川口 由香	国際関係研究科	博士課程後期課程
		北 和樹	国際関係研究科	博士課程後期課程
		角田 燎	社会学研究科	博士課程後期課程
		下村 晃平	社会学研究科	博士課程後期課程
		塩野 仁志	社会学研究科	博士課程後期課程
		印牧 真明	文学研究科	博士課程後期課程
		TIAN Yubo	文学研究科	博士課程後期課程
		斎藤 仁志	文学研究科	博士課程後期課程
		海野 大地	文学研究科	博士課程後期課程
		木多 悠介	文学研究科	博士課程後期課程
		福井 優	文学研究科	博士課程後期課程
		吉水 希枝	文学研究科	博士課程後期課程
		中井 悠貴	文学研究科	博士課程後期課程
		中村 凌太郎	文学研究科	博士課程後期課程
		落合 優翼	文学研究科	博士課程後期課程
		市川 博規	文学研究科	博士課程後期課程
	Yonjae Paik	立命館大学	博士課程後期課程	
GU Yuxiao	文学研究科	博士課程前期課程		

	TANG Xuelin	文学研究科	博士課程前期課程
	新貝 悠	文学研究科	博士課程前期課程
	JIANG Zhuoran	文学研究科	博士課程前期課程
	SONG Yuanxi	文学研究科	博士課程前期課程
	岡田 潤哉	文学研究科	博士課程前期課程
	田畑 勇也	文学研究科	博士課程前期課程
	永松 天騎	文学研究科	博士課程前期課程
	藤井 義也	文学研究科	博士課程前期課程
	LI Weilin	文学研究科	博士課程前期課程
	WANG Zihao	文学研究科	博士課程前期課程
	岡 颯馬	文学研究科	博士課程前期課程
	清水 裕朗	文学研究科	博士課程前期課程
	八巻 栞	文学研究科	博士課程前期課程
④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	丸山 彩	衣笠総合研究機構	特別研究員(RPD)
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)	吉田 武弘	文学部	授業担当講師
	猪原 透	文学部	授業担当講師
	眞杉 侑里	文学部	授業担当講師
	浅沼 光樹	文学部	授業担当講師
	松葉 祥一	文学部	授業担当講師
	平石 貴士	立命館大学	授業担当講師
	藤巻 正己	立命館大学	授業担当講師
	小川 実紗	立命館大学	授業担当講師
	寺澤 優	史資料センター	調査研究員
	梶居 佳広	教養教育センター	非常勤講師
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師
	神田 大輔	文学部	非常勤講師
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師
	小林 琢自	文学部	非常勤講師
	塩見 俊一	立命館大学	非常勤講師
平尾 昌宏	立命館大学	非常勤講師	
客員協力研究員	赤澤 史朗	立命館大学	上席研究員
	西田 彰一	国際日本文化研究センター	プロジェクト研究員
	島田 龍	人文科学研究所	客員協力研究員
	穎原 善徳	人文科学研究所	客員協力研究員
	松井 信之	アジア日本研究機構	客員研究員
	山口 達也	人文科学研究所	客員研究員
	鈴木 裕貴	人文科学研究所	客員研究員
	李定恩	立命館大学	客員研究員

	奈良 勝司	広島大学	教授
	河原 梓水	福岡女子大学国際文理学部	講師
	殷曉星	広島大学	助教
	佐藤 太久磨	漢陽大学校国際文化大学日本学科	助教授
	谷崎 友紀	せとうち観光専門職短期大学	助教
その他の学外者	安田 峰俊	ノンフィクション作家	
	丸山 裕美子	愛知県立大学	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	吉松 覚	間文化現象学研究センター	客員協力研究員
	クロス 京子	京都産業大学	教授
	辻 正博	京都大学	教授
	芹澤 道隆	京都大学	研究員
	Daniel Milne	京都大学	講師
	De Antoni Andrea	京都大学	特定准教授
	丸橋 裕	京都大学大学院医学科	非常勤講師
	橋本 和也	京都文教大学	名誉教授
	佐々木 拓	金沢大学人間社会研究域	教授
	池田 裕輔	釧路工業高等専門学校	講師
	川崎 唯史	熊本学園大学	非常勤講師
	杉本 俊介	慶応義塾大学商学部	准教授
	路剣虹	江蘇海洋大学日本語学科	講師
	安田 慎	高崎経済大学	准教授
	吉川 孝	高知県立大学文化学部	准教授
	太 清伸	国際刑事裁判所	分析官補
	斎藤 デビッド 宥雅	国際刑事裁判所	法務官
	井澤 友美	在インドネシア大使館	専門調査員
	種田 博之	産業医科大学	講師
	二村 洋輔	至学館大学	助教
	岸川 毅	上智大学	教授
	横濱 和弥	信州大学	准教授
	藤木 篤	神戸市看護大学看護学部	准教授
	柿木 伸之	西南学院大学国際文化学部	教授
	宮崎 裕助	専修大学文学部	教授
	長坂 真澄	早稲田大学国際教養学部	准教授
	馬場 靖人	早稲田大学総合人文科学研究センター	招聘研究員
	韓 準祐	多摩大学	准教授
加茂 利男	大阪公立大学	名誉教授	

	川口 博子	大阪大学	学振 PD
	赤阪 辰太郎	大阪大学大学院	日本学術振興会特別研究員 PD
	小西 真理子	大阪大学大学院文学研究科	准教授
	藤川 隆男	大阪大学文学部西洋史学部	教授
	酒井 麻依子	筑波大学	日本学術振興会特別研究員 PD
	廣瀬 浩司	筑波大学人文社会系	教授
	米田 富太郎	中央学院大学	元客員教授
	村井 則夫	中央大学文学部	教授
	三谷 舜	中京大学スポーツ科学部	任期制講師
	間中 光	追手門学院大学	専任講師
	上田 滋夢	追手門学院大学社会学部	教授
	久保田 隆	帝京大学	助教
	渡部 瑞希	帝京大学	講師
	川瀬 雅也	神戸女学院大学	教授
	藤野 真挙	東儀大学校	教授
	榊原 哲也	東京女子大学現代教養学部	教授
	三枝 暁子	東京大学	准教授
	中澤 英輔	東京大学大学院医学系研究科	講師
	郷原 佳以	東京大学大学院総合文化研究科	教授
	本郷 均	東京電機大学工学部	教授
	西山 雄二	東京都立大学人文科学研究科	教授
	伊吹 友秀	東京理科大学	准教授
	猪俣 貴幸	東洋史学専修	博士課程後期課程
	大野 哲也	桃山学院大学	教授
	岡本 直美	同志社大学	特任研究助手
	中谷 哲弥	奈良県立大学	教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	准教授
	寺岡 伸悟	奈良女子大学	教授
	神崎 宣次	南山大学国際教養学部	教授
	松本 健太郎	二松学舎大学	教授
	堀野 正人	二松学舎大学	教授
	麻生 将	二松学舎大学	講師
	中澤 瞳	日本大学通信教育部	准教授
	アンジェロ・イシ	武蔵大学	教授
	佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授
	黒岡 佳征	福州大学（中華人民共和国）	教員

	紀平 知樹	兵庫県立大学看護学部	教授
	須藤 廣	法政大学大学院	教授
	池田 喬	明治大学文学部	教授
	石井 香世子	立教大学	教授
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
	四本 幸夫	立命館アジア太平洋大学	教授
	齊藤 広晃	立命館アジア太平洋大学	准教授
	佐藤 誠	立命館大学	名誉教授
	中谷 義和	立命館大学	名誉教授
	松下 冽	立命館大学	名誉教授
	長島 修	立命館大学	名誉教授
	Christina De Matos	Associate Dean Research, Faculty of Arts & Sciences and Business & Law, the University of Notre Dame Australia (Australia)	Senior Lecturer
	Christine Winter	College of Humanities, Arts and Social Science, Flinders University (Australia)	Matthew Flinders Fellow
	Rowena Ward	Faculty of the Arts, Social Sciences and Humanities, University of Wollongong (Australia)	Senior Lecturer
	Muhammad Tri Andika Kurniawan	Bakrie University	Lecturer
	Shinnosuke Takahashi	Victorian University of Wellington (New Zealand)	Lecturer
研究所・センター構成員 計 204 名 (うち学内の若手研究者 計 44 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2023年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	ウェルズ恵子	多文化理解のための国際英語文化入門	単編著	2022年12月	丸善出版	Michael Davies, 岡本広毅 他 10名	
2	三枝暁子	日本中世の民衆世界—西京神人の千年—	単著	2022年9月	岩波書店		
3	三枝暁子	日本中世の課税制度—段銭の成立と展開—	共編著	2022年5月	勉誠出版	志賀節子氏と共編、他10名執筆	
4	塩見俊一	戦後日本における女子プロレス生成に関する試論 「いかかわしさ」と「健全さ」のはざままで	単著	2023年3月	『スポーツの近現代 その診断と批判』ナカニシヤ出版	有賀郁敏	PP. 151-147

5	市井吉興	From Parcours to Parkour: デブルイヤーのポストコロナな転用と新しいスポーツ誕生のダイナミズム	単著	2023年3月	『スポーツの近現代その診断と批判』ナカニシヤ出版	有賀郁敏	
6	漆原良・細野裕希	バスケットボールにおけるスリーポイントシュート成功率の規定要因——女子大学生選手を対象とした行動的概念に基づくコーディネーション能力評価の視点から	共著	2023年3月	『スポーツの近現代その診断と批判』ナカニシヤ出版	有賀郁敏	
7	Paik, Yonjae	Communal Environmentalism in the History of the Organic Farming Movement in South Korea, 1976 - 1993." In Forces of Nature: Environment and Society on the Korean Peninsula Eds. Eleana Kim, Albert Park, and David Fedman	単著	2023年	Cornell University Press		
8	Paik, Yonjae	韓国の環境保護運動:有機農業運動の事例		2022年	『ハイブリッド環境法』西村智朗, and 山田健吾編 嵯峨野書院		pp. 164-16
9	Nakanishi, H., & Kobayashi, YH.	Historical Overview of Pandemic. In Transportation Amid Pandemics: Practices and Policies. Eds. Zhang, Junyi. & Hayashi, Yoshitsugu.	国際共著	2022年9月	Elsevier		pp. 15-24
10	中谷義和	『自由民主政資本主義国家』	単著	2022年12月	御茶の水書房		
11	松下洸	『ポスト資本主義序説——政治空間の再構築に向けて』	単著	2022年12月	あけび書房		
12	松下洸	『新自由主義の呪縛と深層暴力——グローバルな市民社会の構想に向けて』	共編著	2023年3月	ミネルヴァ書房	山根健至他	
13	松井信之	「資本主義における死と余剰のコミュニティの哲学: アルゴリズム、サイコパス、イミュニティ」『新自由主義の呪縛と深層暴力——グローバルな市民社会の構想に向けて』	分担執筆	2023年3月	ミネルヴァ書房	松下洸、山根健至他	pp. 19-35.
14	美馬達哉	「新型コロナウイルス感染症と医療資源配分」、『尊厳と生存』	分担執筆(共著)	2022年5月	法政大学出版局	加藤泰史、後藤玲子編	
15	美馬達哉	「人工呼吸器のモテ期と人間の尊厳—閉じ込め症候群の人びとは何を感じたか—」『学術会議叢書30「人間の尊厳」とは—コロナ危機を経て—』	分担執筆(共著)	2023年3月	学術会議叢書	公益財団法人日本学術協力財団編	
16	越智萌	国際刑事手続法の原理—国際協働におけるプレミスの特定	単著	2022年12月	信山社		
17	Hideki ENDO	Understanding Tourism Mobilities in Japan (Paperback edition)	編著	2022年4月	Routledge	Koji KANDA	(ENDO) PP. 1~12, PP. 111 ~ 123, PP. 182~196 (KANDA) PP. 87~97
18	遠藤英樹	フィールドワークの現代思想—パンデミック以後のフィールドワーカーのために—	編著	2022年4月	ナカニシヤ出版	橋本和也、神田孝治、藤巻正己、須藤廣、山本理佳、安田慎、渡部瑞希、松本健太郎	(遠藤) PP. i~vii, PP. 1~15 (橋本) PP. 53~64 (神田) PP. 77~90 (藤巻) PP. 91~102 (須藤) PP. 103~116

							(山本) PP. 117~ 128 (安 田) PP. 129~140 (渡部) PP. 151~ 162 (松 本) PP. 163~177
19	遠藤英樹	ツーリズム・モビリティーズの社会理論— 観光社会学の深化と刷新を志向する理論 研究—	単著	2023年3月	立教大学大 学院、2022 年度博士学 位論文		270頁
20	山本理佳	文化遺産といかに向き合うのか—「対話的 モデル」から考える持続可能な未来—	共著 (共訳)	2023年3月	ミネルヴァ 書房	木村至聖・田中 英資・平井健文・ 森嶋俊行	PP. 83~ 114, PP. 141~172
21	Saori HAGAI	Citizenship Education in the ASEAN Community	分担 執筆	2023年2月	Springer.	Toshifumi HIRATA ed.	PP. 67~ 84
22	石崎祥之	変化する宿泊ビジネス	共著	2022年5月	文理閣	廣岡裕一・大島 知典	PP. 25~ 40, PP. 85~105
23	越智萌	国際刑事手続法の原理—国際協働におけ るプレミスの特定	単著	2022年12月	信山社		292頁
24	Megumi OCHI	Contemporary Challenges and Alternatives to International Criminal Justice	共編 著	2022年12月	Maklu	Renata BARBOSA, Francesco MAZZACUVA	251頁
25	越智萌	日台経済交流と国際法	分担 執筆	2022年7月	成文堂	萬歳寛之編	PP. 109~ 184
26	Megumi OCHI	Europe and Japan Cooperation in the Fight Against Cross-Border Crime: Challenges and Perspectives	分担 執筆	2022年11月	Routledge	Shin MATSUZAWA, Anne WEYEMBERG H, Irene WIECZOREK eds.	PP. 126~ 146
27	橋本和也	旅と観光の人類学—「歩くこと」をめぐっ て—	単著	2022年6月	新曜社		300頁
28	須藤廣	看護を学ぶ人のための社会学	共編 著	2022年12月	明石書店	阪井俊文、濱野 健、須藤廣編著	PP. 219- 233
29	安田峰俊	2ちゃん化する世界—匿名掲示板文化と社 会運動—	共著	2023年2月	新曜社	石井大智、清義 明、藤倉善郎	240頁
30	松本健太郎	コンテンツのメディア論—コンテンツの 循環とそこから派生するコミュニケーシ ョン—	共著	2022年10月	新曜社	埴幸枝	240頁
31	安田慎	ダマスクス—都市の物語—	共著 (共訳)	2023年3月	中央公論美 術出版	ロス・バーンズ、 松原康介監訳・ 前田修・谷口陽 子・守田正志	PP. 317~ 396
32	Tasuku ASO	Insularity and Geographic Diversity of the Peripheral Japanese Islands	分担 執筆	2022年6月	Springer	Akitoshi Hiraoka, Satoshi Suyama, Hisamitsu Miyachi, Takehisa Sukeshige, Eds.	PP. 159~ 168
33	Yosuke NIMURA	Overseas Language Diffusion and the “Localist” APP.roach	分担 執筆	2022年4月	V2- Solutions	Ken ichiro HIGUCHI ed.	PP. 83~ 120
34	櫻井純理	格差に挑む自治体労働法政策	共著	2022年10月	日本評論社	上林陽治、篠田 徹、正木浩司、原 田晃樹、野口鉄 平、斎藤徹史	280頁
35	日暮雅夫	アクセル・ホネット『自由の権利』	共著 (共訳)	2023年1月	法政大学出 版局	水上英徳、大河 内泰樹、宮本真 也	689頁
36	寺澤優	戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会 —恋愛・売買春の近現代史—	単著	2022年12月	有志舎		PP. 1~ 311

37	伊故海貴則	明治維新と〈公議〉—議会・多数決・一致—	単著	2022年12月	吉川弘文館		PP. 1～349
38	丸山彩	夢を追いかけて 音楽を学んだ明治女性・岩原愛の生涯	単著	2023年3月	文芸社		PP. 1～202
39	河原梓水	狂気な倫理 「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定	共編著	2022年8月	晃洋書房	小西真理子	PP. 1～311
40	島田龍	『左川ちか全集』	校訂・編纂・解説	2022年4月	書肆侃侃房		
41	加國尚志	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 183～202
42	亀井大輔	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 3～10、289～307
43	長澤麻子	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 41～70
44	田邊正俊	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 71～94
45	神田大輔	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 11～39 (翻訳)、117～140
46	黒岡佳柁	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 141～161
47	青柳雅文	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 163～182
48	佐藤勇一	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 203～224
49	鈴木崇志	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 225～244
50	横田祐美子	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 245～266
51	松田智裕	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 267～287
52	日暮雅夫	視覚と間文化性	共著	2023年3月	法政大学出版局	加國尚志・亀井大輔編	PP. 309～334
53	川瀬雅也	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. iii～ix、3～27、247～255、295～297
54	加國尚志	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 97～108
55	佐藤勇一	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 175～180、276～278
56	亀井大輔	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 220～228
57	松田智裕	ミシェル・アンリ読本	共著	2022年8月	法政大学出版局	川瀬雅也・米虫正巳・村松正隆・伊原木大祐	PP. 279～282

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	ウェルズ恵子	ヴァナキュラー文学、歌と物語	単著	2022年12月		丸善出版『国際英語文化入門』		
2	ウェルズ恵子	シャボン玉の中へ庭は入れません——詩と歌と物語の研究を支えてきたもの(定年退職記念講義録)	単著	2023年3月		立命館文学		
3	三枝暁子	戦国期北野社の領主段銭	単著	2022年5月		勉誠出版『日本中世の課税制度—段銭の成立と展開—』		

4	松原大介	内田百閒「短夜」論——典拠と「神秘的な恐怖」を手掛かりに——	単著	2022年5月		日本近代文学、106号		
5	住田翔子	パルクールと創造する都市—《Jump London》(2003)の制作背景に注目して—	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 135号		PP. 81-106	有
6	住田翔子	廃墟から遺産へ—閉山後の軍艦島に対するまなざしの一考察	単著	2022年12月	立命館大学国際言語文化研究所、言語文化研究、第34巻2号		PP. 225-238	無
7	塩見俊一	プロレス技術の習得に関する試論:私的体験とパルクールとの関係に着目して	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 135号		PP. 17-30	有
8	漆原良	コーディネーションの視点から考えるパルクールとそのトレーニング	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 135号		PP. 31-42	有
9	三谷舜	ボールパークからストリートへ : ベースボール型競技におけるアーバンスポーツ化の力学	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 135号		PP. 107-130	有
10	市井吉興	ポスト2020のスケートボードスケープ : カンタン=ブローの「預言」を越えるには?	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 135号		PP. 131-156	有
11	上田滋夢・市井吉興	パルクール研究の新たな地平 : 2020東京五輪インパクトへの「対抗軸」を考える	共著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so, 立命館大学人文科学研究so紀要, 135号		PP. 5-9	有
12	Kobayashi, YH.	Book Review: Four Years in a Red Coat: The Loveday Internment Camp Diary of Miyakatsu Koike	単著	2023年1月	Australian Historical Studies 54(1) https://doi.org/10.1080/1031461x.2023.2158532		PP. 164-165	有
13	Takahashi, Shinnosuke	Review of These Islands Are Ours: Social Construction of Territorial Disputes	単著	2022年6月	Northeast Asia, New Zealand Journal of Asian Studies, 23(1)		PP. 113-120	有
14	Takahashi, Shinnosuke	An Oceanian Perspective	単著	2023年3月	Keishi Kaji, 117		オンライン	無
15	Takahashi, Shinnosuke	On Shooting of Mr Abe: My Perspective	単著	2022年7月	Asia Media Centre https://www.asiamediacentre.org.nz/opinion-and-analysis/a-personal-reflection-on-abes-death/		オンライン	無
16	Ward, Rowena	India's Participation in the Allied Occupation of Japan	単著	2022年6月	The Twelfth International Convention of Asia Scholars (ICAS 12), Vol 1. https://doi.org/10.5117/9789048557820/ICAS.2022.088		PP. 760-765	有
17	Ward, Rowena	Australia would be a better regional neighbour if it were better at Asian Languages'	単著	2023年1月	https://melbourneasiareview.edu.au/australia-would-be-a-better-regional-neighbour-if-it-were-better-at-asian-languages/ Melbourne Asian Review		オンライン	有
18	五十嵐 美華	「行動システム理論によるアフリカ連合設立課程の分析—地域機構における普遍的な規範の内面化—」	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so『立命館大学人文科学研究so紀要』135号		PP. 199-231	有
19	五十嵐 美華	「行動システム理論分析による国際的および地域的な人権規範の調和における地域国際機構の機能の研究—アフリカ連合を事例として—」	単著	2023年3月	博士論文			有
20	井澤 友美	「民主主義時代のインドネシア—庶民派ジョコ政権下でのオリガーキー化—」	単著	2023年3月	立命館大学人文科学研究so紀要、135号		PP. 157-184	有
21	松下 洸	「コロナ後の世界秩序構想のための批判的検討 (中-1)」	単著	2022年	『アジア・アフリカ研究』、第62巻、第1号			
22	松下 洸	「コロナ後の世界秩序構想のための批判的検討 (中-2)」	単著	2022年	『アジア・アフリカ研究』、第62巻、第2号			
23	松下 洸	「コロナ後の世界秩序構想のための批判的検討 (下)」	単著	2022年	『アジア・アフリカ研究』、第62巻、第3号			
24	松下 洸	「ポスト資本主義構想を考える ; ポスト新自由主義・ポストパンデミック・グローバル市民社会」	単著	2022年	『立命館国際研究』34巻第4号			
25	松井信之	「デジタル化時代の主観性と身体性の哲学 : 共感、リズム、呼吸」	単著	2022年	『立命館アジア・日本研究学術年報』3号		PP. 53-73	

26	Muhammad Tri Andika Kurniawan	"The Decline of Indonesia Parliamentary Control in Post Reforms"	共著	2023年3月	Memoirs of Institute of Humanities, Human and Social Sciences, Ritsumeikan University, No.135	Suseela Devi, Nasrudin Mohammed	PP. 185-197	有
27	越智 萌	国際刑事裁判所判例における「国際的に認められた人権基準」の機能と法的性質	単著	2023年3月	立命館国際研究 35(4)		PP. 101-116	無
28	越智 萌	Taking Illegal Amnesties Seriously: Threefold Approach to the Admissibility Test before the International Criminal Court	単著	2023年3月	International Criminal Law Review		PP. 1-23	有
29	久保田隆	人道に対する犯罪としての強制結婚、人道に対する犯罪および戦争犯罪としての強制妊娠—オングウェン事件第一審裁判部第9部判決（2021年2月4日）	単著	2023年3月	国際法研究 12			無
30	岡本直美	人びとの移動と土地闘争—「生きのびる」から描き直す歴史	単著	2023年3月	『MFE=多焦点的拡張』第3号		PP. 194-229	無
31	Lee, Jung-Eun	English Ability, Transnational Business, Global Labor Market: The Case of Instructors in English Language Schools in the Philippines promoted by Korean-Filipino Enterprises	単著	2022	Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, 4			有
32	李定恩	【研究ノート】「アジアへ移動するトランスナショナル教育消費者—フィリピンの韓国系英語学校の韓国人留学生の事例を中心に」	単著	2023（掲載予定）	『コリアン・スタディーズ』第21号			有
33	アンジェロ・イシ	「コロナ危機と在日ブラジル移民の“失われた30年”、そして移民研究の次なる30年」	単著	2022年6月	日本移民学会『移民研究年報』第28号小特集「日本移民学会創立30周年記念シンポジウム報告“日本移民学会の未来——移民研究は如何に現代の課題に貢献できるのか”」			有
34	遠藤英樹	「ツーリズム・モビリティの社会理論」を志向する観光学—観光的（ツーリストック）な社会の学—	単著	2022年11月	立命館地理学会、立命館地理学、34号		PP. 33~42	有
35	遠藤英樹	感情労働 2.0—パンデミック以後の日本の観光産業における労働の新たな形態—	単著	2023年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、134号		PP. 3~23	有
36	神田孝治	観光学 3.0の探究に向けて—ツーリズム・モビリティーズの再考を通じた展望	単著	2023年3月	観光学術学会、観光学評論、11巻1号		PP. 73~87	有
37	山本理佳	COVID-19 以後の観光研究における時間地理学/リズム分析の意義と可能性	単著	2023年3月	観光学術学会、観光学評論、11巻1号		PP. 61~72	有
38	Takayo OGISO & Saori HAGAI	Localizing transnational norms in Cambodia: cases of ESD and ASEAN citizenship education	共著	2023年2月	Compare: A Journal of Comparative and International Education	Taylor & Francis	PP. 1~18	有
39	Megumi OCHI	The New Recipe for a General Principle of Law: Premise Theory to “Fill in the Gaps”	単著	2022年8月	Asian Journal of International Law	Cambridge University Press	PP. 1~19	有
40	越智萌	「国際刑事裁判所（ICC）への協力」の意味拡大—アジア太平洋地域を例に—	単著	2023年1月	立命館大学国際関係学会、立命館国際研究、35巻3号		PP. 21~43	無
41	越智萌	侵略の法的帰結—国と指導者の責任をどう追及するのか—	単著	2023年3月	日本赤十字国際人道研究センター、人道研究ジャーナル、12巻		PP. 21~43	有
42	Megumi OCHI	Taking Illegal Amnesties Seriously: Threefold Approach to the Admissibility Test before the International Criminal Court	単著	2023年3月	International Criminal Law Review		PP. 1~23	有
43	越智萌	国際刑事裁判所判例における「国際的に認められた人権基準」の機能と法的性質	単著	2023年1月	立命館大学国際関係学会、立命館国際研究、35巻4号		PP. 101~116	無
44	前田一馬	明治期の軽井沢に対する避暑客の環境認識	単著	2023年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、134号		PP. 215~245	有
45	種田博之	制度としての被害者—薬害エイズを事例にして—	単著	2023年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、134号		PP. 275~299	有
46	種田博之	血友病 HIV 感染者の抱える問題—「病い」にまつわる生きづらさと苦心惨憺—	単著	2023年1月	保健医療社会学会、保健医療社会学会論集、第33巻2号		PP. 26~34	無

47	轟博志	新羅における幹線駅路のミクロスケールの復原試論	単著	2022年5月	北東アジア学会、北東アジア研究、28号		PP. 49~64	有
48	松本健太郎	人は自らのイメージを何に託すのか—コロナ禍の『あつ森』ブームにみる個室的空間の拡張—	単著	2022年11月	京都服飾文化研究財団、Fashion Talks、14号		PP. 28~36	無
49	松本健太郎	「幽霊が宿る「モノ」と「場所」—それとの虚構的コミュニケーションの組成を問いなおす」—	単著	2023年2月	日本コミュニケーション学会、日本コミュニケーション研究、第51巻		PP. 109~117	無
50	松本健太郎	ゲーム空間とツーリズム—位置情報ゲームから考える「シミュレーション文化」の拡張—	単著	2023年2月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、134号		PP. 25~46	有
51	薬師寺浩之	巻頭：コロナ禍のアジアと世界における観光の状況	単著	2022年3月	地域創造学研究 54		PP. 1~15	無
52	薬師寺浩之	観光者の問題行動を読み解く	単著	2022年9月	観光学術学会、観光学評論、10巻2号		PP. 131~146	有
53	薬師寺浩之	孤児院ボランティアツーリズムを問い直す—規範的アプローチを超えて—	単著	2023年1月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、134号		PP. 183~213	有
54	韓準祐	湘南・藤沢西北部における産官学民が連携したガストロノミーツーリズムの展開	分担	2022年7月	ランドスケープ研究、86巻2号	小島仁志、近藤秀世、原悠樹、伊藤浩介	PP. 142~143	無
55	間中光	観光のレジリエンスを再考する—自然災害・感染症拡大に対するムラビシ住民の生存戦略を手がかりに—	単著	2023年3月	観光学術学会、観光学評論、11巻1号		PP. 31~43	有
56	谷崎友紀	近世の旅と疫病の関係を探る研究の構築に向けて	単著	2022年3月	せとうち観光専門職短期大学研究教育開発会議、観光振興研究、2巻1号		PP. 14~23	無
57	谷崎友紀	[資料紹介・分析]『小豆島名所図会』にみる近世小豆島の名所	単著	2022年6月	せとうち観光専門職短期大学研究教育開発会議、観光振興研究、2巻2号		PP. 24~27	無
58	松田亮三	揺らぎを公衆衛生の備えに織り込む：日本における新型コロナウイルス感染症への2020年の対応から	単著	2022年5月	時潮社、地域社会学年報、34巻		PP. 14~25	無
59	松田亮三	コロナ危機と地域経済	共著	2022年9月	日本地域経済学会、地域経済学研究、43巻	岩佐和幸、鈴木誠、岡田知弘、松田亮三、高山一夫	PP. 31~38	無
60	加藤雅俊	書評 政治制度論	単著	2022年6月	筑摩書房、年報政治学、2022-II		PP. 29~34	無
61	角田燎	旧軍関係者団体における「歴史修正主義」の台頭と「政治化」による戦後派世代の参加—1980年代~2000年代までの偕行社の動向を事例に—	単著	2022年6月	関西社会学会、フォーラム現代社会学、21巻		PP. 30~44	有
62	下村晃平	二〇一〇年代の英語圏におけるネオリベラリズム研究の現状—The Handbook of Neoliberalism (2016) と The SAGE Handbook of Neoliberalism (2018)の分析から—	単著	2022年10月	ソシオロジ編集委員会、ソシオロジ、67巻2号		PP. 21~37	有
63	下村晃平	ネオリベラリズムの言説についての検討—モンベル協会の目標声明(1947)からアダム・スミス研究所「ネオリベラル・マニフェスト」(2019)まで—	単著	2022年12月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、133号		PP. 291~327	有
64	下村晃平	書評 グレゴワール・シャマユール著、信友建志訳『統治不能社会—権威主義的ネオリベラル主義の系譜学』明石書店、2022年—	単著	2022年12月	立命館大学、立命館大学産業社会論集、58巻3号		PP. 59~165	有
65	鈴木裕貴	映像の中の「証言者」—10 フィート運動と1980年代の被爆者たち—	単著	2023年3月	広島平和研究所編集委員会、広島平和研究、10号		PP. 193~215	有
66	鈴木裕貴	「近代批判としての原爆批判」の可能性—1977年 NGO シンポジウムと丸山眞男の証言—	単著	2023年3月	立命館大学、社会システム研究、46号		PP. 37~58	有
67	塩野仁志	「司法と福祉の連携」における「入口支援」の実態と課題—地域生活定着支援センターへのアンケート調査と調査聞き取り調査報告—	単著	2023年3月	日本社会福祉学会関西ブロック、関西社会福祉研究、8巻			有
68	小関素明	加藤周一の死生観の相貌	単著	2023年3月	加藤周一現代思想研究センター、加藤周一現代思想研究センター報告、準備号		PP. 31~39	無
69	山口一樹	1920年代後半における宇垣一成擁立運動の諸相—三月事件前史—	単著	2022年12月	立命館大学人文科学研究所紀要 133		PP. 105~132	有

70	山口一樹	史料紹介 大陽主義と国体(上)	単著	2023年2月	立命館史学 42		PP. 27 ~51	有
71	山口一樹	戦間期日本陸軍における「死生観」—皇道派将官・秦真次からの検討—	単著	2023年3月	日本思想史研究会会報 39		PP. 28 ~41	有
72	寺澤優	大阪府下ダンスホール営業許可取消処分をめぐる抵抗と救済工作	単著	2022年	民衆史研究 103		PP. 5~ 19	有
73	寺澤優	書評と紹介 加藤晴美著『遊廓と地域社会—貸座敷・娼妓・遊客の視点から—』	単著	2022年	日本歴史 891			有
74	十河和貴	書評 小関素明著『日本近代主権と「戦争革命」』	単著	2022年	『立命館アジア・日本研究学術年報』3		PP. 189 ~191	有
75	十河和貴	犬養毅総裁期政友会の行政制度設計—山本条太郎の無任所大臣・国策審議会構想を中心に—	単著	2022年9月	『史学雑誌』131-9、		PP. 47 ~72	有
76	伊故海貴則	〈書評〉三村昌司著『日本近代社会形成史—議場・政党・名望家—』、32~38頁	単著	2022年4月	『人民の歴史学』231		PP. 32 ~38	有
77	猪原透	明治期の社会学と国際関係論—建部遯吾の対外観』59-82	単著	2022年	Antitled』Vol.1、		PP. 59 ~82	無
78	猪原透	書評：大田英昭著『日本社会主義思想史序説—明治国家への対抗構想』	単著	2023年	『日本思想史学』54		PP. 180 ~184	有
79	河原梓水	沼正三・倉田卓次・天野哲夫—『家畜人ヤブー』騒動解説	単著	2023年3月	立命館大学人文学会『立命館文学』682		PP. 107 ~123	有
80	河原梓水	「沼正三」	単著	2023年3月	日本近代文学館編『日本近代文学大事典 増補改訂デジタル版』第二回リリース			無
81	佐藤太久磨	「『自主的核武装』論と『非核武装国連盟』論—NPT 反対論の政治思想と敗戦後日本」	単著	2022年12月	『立命館大学人文科学研究所紀要』133		PP. 255 ~289	有
82	島田龍	解説・詩人左川ちかの肖像	単著	2022年4月	『左川ちか全集』		PP. 374 ~407	無
83	島田龍	戦前詩と戦後詩 現代詩の系譜	単著	2022年4月	外村彰編『昭和の文学を読む 内向の世代までをたどる』		PP. 127 ~156	無
84	島田龍	特典ペーパー・左川ちかを探して 北園克衛とともに	単著	2022年6月	『左川ちか全集』、web 連載「web 侃づめ」掲載			無
85	島田龍	高祖保と左川ちか—「椎の木」の頃から「念ふ鳥」へ—	単著	2022年7月	『詩と思想』418		PP. 50 ~53	有
86	島田龍	声の在り処—伊藤整と三人の女たち 左川ちか・伊藤貞子・伊藤マリ子	単著	2022年11月	『文學界』76-12		280 ~ 289	有
87	島田龍	ミナ・ロイと左川ちか—翻訳のエクスタシー—	単著	2022年12月	『詩と思想』3-423号		PP. 90 ~93	有
88	島田龍	対談「現代詩の先駆、左川ちか—全集の刊行によって新たな読解、魅力を引き出している 島田龍編『左川ちか全集』(書肆侃侃房)をめぐる」	対談	2022年7月16日	『図書新聞』3552	奥間埜乃	PP. 1~ 2	無
89	島田龍	『左川ちか全集』は生まれたか—書物としての「左川ちか」と解放の企図—	単著	2022年7月25日	『日本の古本屋メールマガジン』、			無
90	島田龍	「座談会 左川ちかとモダニズム詩」	座談会	2022年8月	『ねむらない樹』9	蜂飼耳・鳥居万由実	PP. 88 ~101	無
91	島田龍	喪失を友として」	単著	2022年12月	『CYCAS』45、関西大倉学園・関西大倉同窓会		PP. 7~ 8	無
92	島田龍	展望・『左川ちか全集』を編纂して—開かれたテキストへ、	単著	2023年3月	『昭和文学研究』86		PP. 195 ~198	有
93	西田彰一	日常生活から国家の秩序へ—一覧克彦の「古神道」「神ながらの道」	単著	2022年	伊藤聡・斎藤英喜編『神道の近代—アクチュアリティを問う』		PP. 107 ~118	無
94	穎原善徳	戦前日本における条約の国内法上の効力に関する政府見解についての考察」	単著	2022年12月	『立命館大学人文科学研究所紀要』133		PP. 1~ 38	有
95	谷徹	間文化現象学研究センター 記念会議講演へのコメント	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、132号		PP. 33 ~46	有
96	鈴木崇志	フッサールにおける共同精神と歴史的世界	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、132号		PP. 133 ~150	有
97	辻敦子	「抑圧された者たちの歴史」へのパッセージ—柿木伸之『断絶からの歴史—ベンヤミンの歴史哲学』を読む—	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、132号		PP. 205 ~217	有

98	黒岡佳征	死者と共に生きる歴史——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に寄せて	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 219~238	有
99	亀井大輔	問いとしての「メシア的なもの」——柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』に寄せて	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 239~252	有
100	柿木伸之	断絶からの歴史の展開のために——『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学7学』に対する批評に答えて	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 253~273	有
101	青柳雅文	トランプの時代とアドルノの「文化産業」論	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 281~302	有
102	亀井大輔	巻頭言「小特集1：〈あいだ〉と〈越境〉——間文化現象学の展開と新たななはじまり」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 1~3	有
103	亀井大輔	巻頭言「小特集2：第2回東アジア間文化現象学会議」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 47~49	有
104	加國尚志	巻頭言「小特集3：柿木伸之『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』合評会」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 203~204	有
105	日暮雅夫	巻頭言「小特集4：『アメリカ批判理論：新自由主義への応答』を読む」	単著	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 275~279	有
106	神田大輔	ゲオルク・シュテンガー「〈あいだ〉から〈変形〉への往還——普遍主義と個別主義およびグローバル性とローカル性を越える新たな動き——」	単訳	2022年11月	立命館大学人文科学研究所, 立命館大学人文科学研究所紀要, 132号		PP. 5~32	有
107	亀井大輔	第2回東アジア間文化現象学会議と間文化現象学・国際シンポジウムの開催報告	単著	2022年11月	日本現象学会, 現象学年報, 38号		PP. 83~88	無
108	谷徹	超越論的な哲学とより超越論的な哲学	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 9~44	無
109	加國尚志	密着における乗り越え——メルロ＝ポンティ『パロールの問題 一九五三—一九五四年コレージュ・ド・フランス講義 ノート』についての一考察	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 45~64	無
110	亀井大輔	一九七〇年代におけるデリダのベンヤミン読解について	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 65~78	無
111	林芳紀	ドーピングのハームリダクションの可能性	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 79~96	無
112	鈴木崇志	フッソールの享受論	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 97~108	無
113	酒井麻依子	主体形成とアイデンティティの「引き受け」	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 109~119	無
114	杉本俊介	カントと Why be moral? 問題——北尾宏之先生の著作に基づいて	単著	2022年12月	立命館大学人文学会, 立命館文學, 680号		PP. 137~148	無
115	加國尚志	加藤周一の「眼」と「耳」	単著	2023年3月	加藤周一現代思想研究センター報告, 立命館大学衣笠総合研究機構 加藤周一現代思想研究センター、準備号		PP. 21~30	無
116	亀井大輔	デリダと虚構性の問い——歴史、証言、嘘	単著	2022年4月	哲学、日本哲学会、73号		PP. 25~36	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	ウェルズ恵子	黒人音楽の軌跡を辿る：歌は抑圧と抵抗を訴えるか	2022年6月	早稲田大学異文化交流センタートークセッション、早稲田大学異文化交流センター	
2	松原大介	内田百閒「痲瘡神」と中世・近世の痲瘡神	2022年9月	中世関連研究会、衣笠キャンパス	
3	松原大介	内田百閒「猫」と『新青年』——初出雑誌の特性を視座として——	2022年10月	日本近代文学会秋季大会 同志社大学 今出川キャンパス良心館	

4	松原大介	内田百閒「柳検校の小閑」——「方丈記」の記述について——	2023年3月	中世関連研究会、衣笠キャンパス	
5	塩見俊一	「プロレス技術」に関する試論：複層性と習得化の過程	2022年8月	ワークショップ「パルクール研究の新たな地平:2020東京五輪インパクトへの『対抗軸』を考える」(オンライン)	
6	漆原良	コーディネーションの視点から考えるパルクールとそのトレーニング	2022年8月	ワークショップ「パルクール研究の新たな地平:2020東京五輪インパクトへの『対抗軸』を考える」(オンライン)	
7	三谷舜	軟式ボールを用いたスポーツの「おもしろさ」とレジャー化の関係	2023年3月	日本スポーツ社会学会第32回大会(中京大学豊田キャンパス)	
8	市井吉興	どのようにしてパルクール(Parcours)はパルクール(Parkour)となったのか:エベルの「メトード・ナチュレール」のポストコロニアルな転用に関する一考察	2022年9月	日本体育・スポーツ・健康学会第72回大会(順天堂大学さくらキャンパス)	
9	市井吉興	「パルクールのパラドクス」をめぐるスポーツ社会学と文化犯罪学との「対話」の試み	2023年3月	日本スポーツ社会学会第32回大会(中京大学豊田キャンパス)	
10	Takahashi, Shinnosuke	“Writing New Zealand as Resistance: Kawase Isamu and Cultural Internationalists’ Struggles in War-Time Japan”	2022年	the Japan-East Asia Workshop, the University of Auckland	
11	Takahashi, Shinnosuke	“Participating from a Distance: Engaging in Okinawan History in Australia and New Zealand”	2022年	the Pacific and Asian History Seminar Series, Department of Pacific and Asian History, the Australian National University.	
12	Takahashi, Shinnosuke	“Japanesia (Yaponesia), the Arc of Ryūkyū, and Shimao Toshio’s Cultural Resistance against the Colonial Politics of the Past	2022年	the University of Vienna Japan Seminar Series, Department of East Asian Studies, the University of Vienna, Austria.	
13	Takahashi, Shinnosuke	“Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South”	2022年	ANU Japan Institute Seminar Series, the Australian National University, Australia. (Link: https://vimeo.com/690752908)	
14	de Matos, Christine.	Workshop at University of Vienna for special journal issue of Labor History on Gender	2022年6月6-8日	Workshop at University of Vienna for special journal issue of Labor History on Gender, War and Coerced Labor. With Fia Sundevall, Anders Albäck and Julia Heinemann.	Fia Sundevall, Anders Albäck and Julia Heinemann.
15	de Matos, Christine.	” Visualising Modernity” : US representations of occupier wives and German domestic workers, 1945-1949’	2022年6月28日	Invited public lecture (in person). Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg (FAU), Erlangen, Germany.	
16	de Matos, Christine.	“An Analysis of Transnational Encounters in Private Spaces in Occupied Japan and (West) Germany”	2022年9月20日	DFG-funded workshop for project ‘Occupied Spaces: A Comparative Historical Analysis of Transnational Encounters in Private Spaces in Occupied Japan and (West) Germany, 1945-1955’ Sophia University, Tokyo.	
17	de Matos, Christine.	Women were occupiers too: Understanding the role of women in the Allied Occupations of Germany and Japan”	2022年10月15日	Brisbane Feminist Festival. Invited speaker (online) for panel on Feminism in Conflicts.	
18	Paik, Yonjae	Denmark as a Model of Agrarian Modernization in 20th Century Korea and Japan	2022年3月25日	Association for Asian Studies 2022 Annual Conference, Honolulu, USA	
19	Takenaka, Ayumi	Historical Trajectories of Japanese Immigrant Foodways across the Pacific: Nikkei Food in Peru, Brazil, and the United States	2023年3月	From Table to Text: Border and Boundaries in Food History,” University of California, Santa Barbara	
20	Ward, Rowena	Who Studies Japanese at the Intermediate and Advanced Levels in Australian Universities?	2022年4月4日	Language and Linguistics Research	
21	Ward, Rowena	Who Studies Japanese at the Intermediate and Advanced Levels in Australian Universities (and why?)	2022年5月20日	School of Humanities and Social Inquiry Research Presentation	
22	Ward, Rowena	Student Motivations in Japanese Language Learning	2022年5月4日	Jookyuu Network webinar 4 May 2022	A/Professor Carol Hayes, Dr Toshiyuki Nakamura and Dr

					Laura Emily Clark)
23	Ward, Rowena	Participant: Round-Table Discussion: ‘ An Analysis of Transnational Encounters in Private Spaces in Occupied Japan and (West) Germany: A Possibility of Comparative Histories’	2022 年 9 月 20 日	Institute for American and Canadian Studies, Sophia University	
24	Ward, Rowena	Who Studies Japanese at the Intermediate and Advanced Levels in Australian Universities?	2022/11/1	LCNAU, Japanese Studies Association of Australia	Dr Laura Emily Clark
25	Ward, Rowena	Student Motivations to Study Japanese at the Intermediate and Advanced Levels in Australia	2022 年 12 月 1 日	Clasic2022 (online)	
26	Ward, Rowena	Nouvelle and Purana Qila Internment Camps Prisoners of the Asia-Pacific War	2023 年 2 月 8 日	History, Memory, and Forgetting Symposium, Kyoto University	
27	Kobayashi, YH	Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific Across North and South, Japan Seminar Series	2022 年 3 月 16 日	ANU Japan Seminar Series	
28	Kobayashi, YH	“Opening Remarks”	2022 年 7 月 18 日	Two Day Online Workshop -- WWII in the Asia-Pacific: Border Crossing Mobilities	
29	Kobayashi, YH	“Japanese Total War System, War Mobilisation and Migration: the case of comfort women”	2022 年 7 月 18 日	Two Day Online Workshop -- WWII in the Asia-Pacific: Border Crossing Mobilities	
30	Kobayashi, YH	‘Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South’	2022 年 9 月 2 日	Flinders History Research Seminar, Flinders University	
31	Kobayashi, YH	‘Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South’	2022 年 12 月 1 日	University of Vienna, Department of East Asian Studies Seminar	
32	Kobayashi, YH	グローバル化と物流の歴史	2022/12/10	都市環境システム研究会, 大阪	
33	Kobayashi, YH	Discussant Remarks on Presentation: “ Frames and counter-frames: seeing the Pacific with many eyes”	2023 年 1 月 17 日	A Pacific intellectual history: modern imperialism, indigeneity, and ecological justice, University of Tokyo	
34	Kobayashi, YH	Radical shift required: gender inequality in the Japanese university sector	2023 年 2 月 8 日	Knowledge Exchange Workshop 2023, Monash Gender and Family Violence Prevention Centre, Monash University, Monash Gender and Family Violence Prevention Centre	
35	Kobayashi, YH	Life in the Meantime: A Case of Japanese POWs in Rabaul	2023 年 2 月 8 日	Prisoners of the Asia-Pacific War: History, Memory, and Forgetting Symposium, Kyoto University	
36	Kobayashi, YH	Discussant Remarks on Two Keynote Speeches by Dr Eric Sue & Prof. Koji Kanda	2023 年 3 月 29 日	New Social Theory of Mobilities and Digital Revolution, Ritsumeikan University and University of South Australia Research and Educational Exchange Agreement Conference	
37	IZAWA, Tomomi	"Reflecting the Eco-Tourism Experience of Bali"	7 September 2022.	International Seminar on Paths toward Green Economy: Stocktaking of Bali Experience and Global Initiatives, Universitas Warmadewa,	
38	川村 仁子、龍澤 邦彦	「グローバル秩序論：国境を越えた思想・制度・規範の共鳴」	2022 年 5 月 24 日	第 1 回グローバル・リスク研究会	
39	川村 仁子	「先端科学・技術のガバナンス」	2022 年 10 月 29 日	立命館大学土曜講座「人文・社会科学の意義を見つめ直す-感染症、戦争、災害等の『グローバルなリスク』に立ち向かう<知>のために」、オンライン (Zoom)	遠藤英樹他
40	Satoko KAWAMURA	“ Introduce Ritsumeikan University, the College of International Relations, and my Career and Research”	2022 年 11 月 2 日	“Exploration of Academic Collaborations between Kazakhstan and Japan” , online (Zoom).	
41	川村 仁子	「グローバルなリスクとしての科学・技術」	2022 年 12 月 15 日	第 2 回グローバル・リスク研究会 (人文研助成プログラム)、オンライン (Zoom)。	
42	Matsui, Nobuyuki	“ Philosophy in Postwar Japan from the Perspectives of Human Body, Action, and History: How did Nakamura Yūjirō succeed Miki Kiyoshi?”	2022 年 4 月 9 日	International Workshop 「三木清：歴史と構想力」、京都大学。	
43	松井 信之	「デジタル化による技術と人間の関係の変容と社会の危機：日米中を素	2022 年 9 月 22 日	学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略：ポストコロナ時代を見据えて」(主催：立命館大学	

		材とする哲学的考察」		アジア日本研究所)	
44	Matsui, Nobuyuki	“ ‘ Rhythmic Oscillation ’ , Cybernetics, and Human Desire: Opening Japanese Philosophy toward the Anthropocene and Beyond it”	2022年10月29日	The Anthropocene and Postwar Japanese Philosophy: Critical Assessments and Propositions towards New Perspectives (Organized by Matsui Nobuyuki and Fernando Wirtz, hosted by Asia-Japan Research Institute, at Suzaku Campus, Ritsumeikan University and online).	
45	Matsui, Nobuyuki	“The Genealogy of “Common Sense” in and beyond Capitalism: Its Formation between Ecology, Labor, and Technology”	2022年12月3日	Asia Pacific Conference at Beppu, Oita.	
46	Matsui, Nobuyuki	“ Book Launch for Matsui Nobuyuki (ed.), Globally Shared Common Sense from the Philosophy of Imagination: Bridging Eastern and Western Perspectives”	2022年12月14日	The 12th A&J Book Launch, Online.	
47	Matsui, Nobuyuki	“From Philosophy of Technology to Philosophy for Technē: The Risk of Digitalization and Rhythm”	2023年1月16日	International Workshop for Younger Researchers: Science, Technology and International Society, Hybrid, at Kinugasa Campus, Ritsumeikan University.	
48	Tatsuya, Yamaguchi	“Is There Any Possibility of Moon Agreement? : On the Governance of Space Resources Activities”	2023年1月16日	International Workshop for Younger Researchers: Science, Technology and International Society, Hybrid, at Kinugasa Campus, Ritsumeikan University.	
49	Muhammad Tri Andika Kuruniawan,	"The Political Rhetoric of Indonesia Foreign Policy: An Analysis of Presidential Speech 2014-2019"	15-16 November 2022.	The 9th International Conference on International Studies (ICIS 2022) in Universitas Utara Malaysia	
50	Muhammad Tri Andika Kuruniawan,	"The Politics of Parliamentary Control in Indonesia (2014-2019): An Analysis of The oversight Role of the Dewan Permusyawaratan Rakyat"	15-16 November 2022.	The 9th International Conference on International Studies (ICIS 2022) in Universitas Utara Malaysia	
51	井上充幸・猪俣貴幸	蓬左文庫蔵『銅人臉穴鍼灸図経』拓本とその来歴について—17世紀前半の東アジアにおける学術交流史解明の手がかりを探る—	2023年2月	白川研プロジェクト研究「日中韓漢籍研究」研究会・日中韓文人交流研究会	
52	越智 萌	The Revival of General Principles of Law Recognized by ‘Civilized Nations ’ : Internationally Recognized Human Rights before the International Criminal Court	2023年1月	Victim-centered International Law	
53	川口博子	The International Criminal Court’s Reparation Outreach Activities in the Northern Uganda	2023年1月	Victim-centered International Law	
54	越智 萌	判例研究「ンタガンダ事件賠償命令 上訴審判決」	2022年11月	国際刑事判例研究会	
55	越智 萌	判例研究「カタンガ事件賠償命令」	2022年6月	国際刑事判例研究会	
56	川口博子・越智萌	ウガンダ北部紛争後の被害者のための賠償にむけて：国際刑事裁判所を介した変革的正義の可能性	2022年5月	日本アフリカ学会	
57	越智萌	ICCの賠償命令の傾向と変革的正義概念の取扱い	2022年4月	国際刑事司法における変革的正義第一回研究会	
58	園田節子	「趣旨説明：越境政治を捉える—研究領域の可視化」	2022年6月26日	日本移民学会第32回年次大会ラウンドテーブルC、京都大学	
59	園田節子	「中国のグローバルな「僑務」の歴史的検討—動機・体制・変容」	2022年6月26日	日本移民学会第32回年次大会ラウンドテーブルC、京都大学	
60	Ishi, Angelo.	From global financial crisis to Covid-19 Pandemic: Old and new challenges for Nikkei Brazilians in Japan	11 May, 2022	招待講演、UCLA Berkeley (カリフォルニア大学主催、ウェビナー形式).	
61	アンジェロ・イシ	「在外ブラジル人向け政策の現状と課題—外交官の“エージェンシー”、“日系人”という要素に着目して」	2022年6月26日	日本移民学会第32回年次大会ラウンドテーブルC、京都大学	
62	Ishi, Angelo	. “Constructing a collective memory: how Nikkei Brazilian migrants are (re)interpreting their “history” in Japan.”	16 September, 2022.	International Conference “Looking back to look forward: Celebrating 10 Years of Research on Migration, Forced Displacement and Superdiversity” (Panel 31). University of Birmingham (UK)	

63	李定恩	「韓国人のトランスナショナルな移住と越境する公権力—東南アジアの「コリアンデスク」を中心に」	2022年6月26日	日本移民学会第32回年次大会ラウンドテーブルC、京都大学	
64	李定恩	「フィリピンの韓国系英語学校が形づくるフィリピン人英語講師たちの「移動」—フィリピン人英語講師たちの職業移動と意味づけを中心に」	2022年6月26日	日本移民学会第32回年次大会自由論題報告、京都大学	
65	園田節子	「越境政治 (transnational politics) 概念に関する先行研究の整理」	2022年7月29日	「越境政治の国際比較」第1回研究会、キャンパスプラザ京都第6講習室	
66	李定恩	「韓国からフィリピンへの教育移動はどのように起きているか—メゾ構造としてのフィリピンの韓国系英語学校を中心に」	2022年12月10日	韓国朝鮮文化研究会、オンライン	
67	Lee, Jung-Eun	“Needs, Hopes, and Dilemmas of South Korean Students as Transnational Education Consumers”	14-Dec-22	Asia Pacific Conference 2022, Asia Pacific University, Oita, Japan	
68	岡本直美	「(越境)から構成される「島ぐるみ」の土地闘争:1950年代沖縄における伊江島土地闘争を中心に」	2023年2月3日	「越境政治の国際比較」第2回研究会、立命館大学衣笠キャンパス啓明館302教室	
69	岸川毅	「僑選議員にみる中華民国の華僑政策」	2023年2月3日	「越境政治の国際比較」第2回研究会、立命館大学衣笠キャンパス啓明館302教室	
70	Hideki ENDO	Digital revolution and transformation of Japanese tourism industry after COVID-19	2022年7月	THE FUTURE OF WORKFORCE IN THE TOURISM, HOSPITALITY AND EVENTS INDUSTRY, 2022 Curtin University's Tourism Research Cluster (TRC) and Future of Work Institute (FOWI) Symposium	
71	遠藤英樹	観光のゼマンティック—デジタル革命と結びつき新たに構築されるツーリズム・モビリティ	2022年9月	日本記号学会 第42回大会 (追手門学院大学茨木総持寺キャンパス)	
72	遠藤英樹	情動、空気、ツーリズム・モビリティーズのデジタル化	2022年12月	立命館大学・南オーストラリア大学 研究協力協定締結記念カンファレンス 「モビリティーズとデジタル革命」(立命館大学衣笠キャンパス)	
73	遠藤英樹	ツーリストの欲動を/が駆動する観光=メディアの精神分析	2023年2月	観光学術学会 第10回研究集会 (多摩大学湘南キャンパス)	
74	遠藤英樹	「ツーリズム・モビリティーズ、デジタルテクノロジー、情動」の社会理論	2023年3月	立命館大学・南オーストラリア大学 研究教育交流協定カンファレンス「モビリティーズとデジタル革命の新たな社会理論」(立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム)	
75	神田孝治	現代の観光地理学と空間への問い	2022年6月	第1回 人文地理学会観光空間研究部会(オンライン)	
76	神田孝治	観光学 3.0 を探求する—ジョン・ア— ーリによる研究の考察を通じて—	2023年3月	立命館大学・南オーストラリア大学 研究教育交流協定カンファレンス「モビリティーズとデジタル革命の新たな社会理論」(立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム)	
77	山本理佳	ヘリテージをめぐる観光空間へのアプローチ	2022年6月	第1回 人文地理学会観光空間研究部会(オンライン)	
78	山本理佳	観光における「リズム」と空間— COVID-19 を契機とした時間地理学的視点への着目—	2022年7月	観光学術学会 第11回大会 (オンライン)	
79	川村仁子	グローバル秩序論: 国境を越えた思想・制度・規範の共鳴	2022年5月	第1回 グローバル・リスク研究会 (気立命館大学衣笠キャンパス)	川村 仁子、 龍澤 邦彦
80	Satoko KAWAMURA	Introduce Ritsumeikan University, the College of International Relations, and my Career and Research	2022年11月	Exploration of Academic Collaborations between Kazakhstan and Japan (online)	
81	川村仁子	グローバル・リスクとしての科学・技術	2022年12月	第2回 グローバル・リスク研究会 (オンライン)	
82	羽谷沙織	カンボジアの高等教育におけるジェンダー・ギャップと女性をめぐるディスコース再考—「白い布」か「宝石」か—	2022年6月	第58回 日本比較教育学会 課題研究II 高等教育の「リバース・ジェンダー・ギャップ (RGG)」—東南アジアの国際比較— (オンライン)	
83	Saori HAGAI	The Polished Veneer of Women's Empowerment in Cambodian Higher Education: Uneven Progress in Overcoming Structural Challenges	2022年11月	5th WCCES Symposium JECS international webinar "Reverse Gender Gap" in Tertiary Education in Southeast Asia: Progress against Global Discourse (online)	
84	前田一馬、夏目宗幸	市区町村スケールにおける別荘地の立地特性	2022年10月	第31回 地理情報システム学会 (ポスター)	

85	前田一馬	近代日本における「高原」の表象—雑誌『山』を中心とした予察的検討—	2022年5月	立命館大学人文科学研究重点プログラム グローバル化と地域の多様性 (diversity) 2022年度研究会 (オンライン)	
86	石田雅芳	食を起点としたオンライン地域価値共創プラットフォーム GAstroEdu—広島県尾道市瀬戸田町とイタリアをレモンでつなぐ Salone del Gusto 2022 “Lemon Summit” の取り組み—	2022年11月	Asian Food Study Conference 第12回 亜州食学論壇 (立命館大学びわこ草津キャンパス)	野中朋美、白坂成功、本田智巳、大野嘉子
87	石田雅芳	Diffuse University and the Post-Covid Era	2022年9月	Symposium Toward the International Society for Gastronomic Sciences and Studies, University of Gastronomic Sciences (University of Turin)	
88	石田雅芳	食・地域資源活用のための参加者の視点設定と学びを誘発する創造性・価値共創オンラインワークショップ	2022年11月	日本創造学会 第44回研究大会 (慶應義塾大学日吉キャンパス+オンライン ハイブリッド)	野中朋美、本田智巳、白坂成功、荻沼雅美、吉武莞、谷口和輝、大野嘉子、大浦史仁
89	橋本和也	「感染症とともにある観光学」の試み—感染症の人類学を参照に—	2022年11月	立命館地理学会 第34回大会 (立命館大学衣笠キャンパス)	
90	須藤廣	参加型観光とテクノロジー—自己・親密性・環境の拡張と変容—	2023年3月	立命館大学・南オーストラリア大学 研究教育交流協定カンファレンス「モビリティーズとデジタル革命の新たな社会理論」(立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム)	
91	種田博之	血友病 HIV 感染者の抱える問題—「病い」にまつわる生きづらさと苦心惨憺—	2022年5月	日本保健医療社会学会 第48回大会 (松山大学)	早坂典生 (特定非営利活動法人りょうちゃんず)
92	種田博之	医学部における薬害教育の難しさ—いわゆる「正史」と社会学的発見とのずれ—	2022年5月	日本保健医療社会学会、第48回大会 (松山大学)	
93	轟博志	文禄・慶長の役における、加藤清正の侵攻経路	2023年3月	RCAPS リサーチトーク「日韓における山岳空間と交通路認識」(立命館アジア太平洋大学)	
94	轟博志	済州—日本交流2千年の歴史と未来—	2022年12月	済州学会年例学術大会	
95	轟博志	旧満州地形図に現れた清代駅路の線形特性	2022年11月	文化歴史地理学会年例学術大会	
96	轟博志	明清代における満州地域の陸上交通路	2022年9月	韓国満州学会・北東アジアの交通史と移動経験	
97	轟博志	Roads as part of early modern Korean imaginative geography	2022年9月	T2M 20th Annual Conference (University of Padova +online)	
98	轟博志	朝鮮半島院宇立地の通時性	2022年6月	大韓地理学会年例学術大会	
99	松本健太郎	デジタル革命とどう向き合うべきか—バックミラーのなかの「体験の技術的合成」—	2022年5月	日本コミュニケーション研究者会議 (オンライン)。	
100	松本健太郎	幽霊が宿る「モノ」と「場所」—その虚構的コミュニケーションにおける歴史的/文化的コンテクスト—	2022年6月	日本コミュニケーション学会 51回大会 (オンライン開催)	
101	松本健太郎	バーチャル空間とツーリズム—位置情報ゲームから考える「シミュレーション文化」の拡張—	2022年7月	第2回 人文地理学会観光空間研究部会 (オンライン)	
102	松本健太郎	「現実」と「虚構」をまたぎつつ歩く—『ゲーム化する世界』と、それ以後の軌跡をふりかえって—	2022年7月	日本記号学会 第42回大会 (追手門学院大学茨木総持寺キャンパス)	
103	松本健太郎	从游戏与观考察数字都市空间：现代模拟文化中的“物-像”网络 (ゲームと観光から考えるデジタル都市空間：現代のシミュレーション文化におけるモノ=イメージのネットワーク)	2022年10月	上海師範大学「文化転換と現代中国」イノベーションチーム	
104	松本健太郎	解題：『コンテンツのメディア論』のコンテクスト	2023年1月	「地域と宗教」研究会、第6回研究会 (瀬底島集落センター)	
105	松本健太郎	漢服イメージを介した映像的コミュニケーション	2023年1月	筑波大学人間総合科学学術院「世界遺産学学位プログラム」	
106	安田慎	COVID-19 以後の観光のサステイナビリティ—モルディブ観光をめぐる社会的ジレンマ—	2022年7月	観光学術学会 第11回大会 (オンライン)	

107	間中光	不確実な世界における地域と観光—レジリエンス概念を用いた災害・感染症対応の事例分析から—	2022年7月	観光学術学会 第11回大会(オンライン)	
108	麻生将	観光における感染症と排除	2022年11月	立命館地理学会 第34回大会(立命館大学衣笠キャンパス)	
109	麻生将	都市の教会からみた近代日本とキリスト教	2023年3月	二松学舎大学文学部シンポジウム 日本と西洋 歴史・文化の交差(二松学舎大学)	
110	麻生将	古写真で見る近代奄美大島の都市景観とカトリック—名瀬町を中心に—	2023年3月	歴史地理学会262回例会(日本大学)	
111	麻生将	視覚化された無教会主義の思想—斎藤宗次郎の風景画を通して—	2023年3月	日本地理学会2023 春季学術大会(東京都立大学)	
112	Yosuke NIMURA	'Textual Manipulation of West' s Image: Ideological Function of Joseph Conrad' s Almayr' s Folly in Imperial Japan	2022年12月	The 6th International Conference on Linguistics, Literature and Culture (ICLLIC 2022) (Hybrid)	
113	松田亮三	刑事施設における医療の同等性を担保するための政策 欧州の議論と取組み	2022年7月	日本刑法学会関西部会令和4年度夏期例会(大阪公立大学杉本キャンパス)	
114	松田亮三	刑事収容施設の医療体制—欧州を中心とした公衆衛生アプローチの国際的動向	2022年10月	第81回日本公衆衛生学会総会(YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館、山梨県防災新館)	
115	松田亮三	普遍医療給付の徹底に向けた課題 医療機構論からの検討	2022年12月	貧困研究会第15回研究大会(佐久大学)	
116	加藤雅俊	資本主義的民主主義の要諦としての「福祉国家」とその変容	2022年10月	2022年度日本政治学会研究大会(龍谷大学)	
117	角田燎	旧軍関係者団体の戦後史	2022年4月	関西社会学会 関社博論インカレセミナー(オンライン)	
118	角田燎	団体を通じた自衛隊と旧軍の連続性	2022年11月	第95回日本社会学会大会(追手門学院大学)	
119	下村晃平	英語圏におけるネオリベリズム研究の展開	2022年9月	Cultural Typhoon 2022(成城大学)	
120	山口一樹	戦間期日本陸軍における「戦死」—皇道派将官・秦真次の「太陽道」「皇道」概念から—	2022年8月7日	第42回平和のための京都の戦争展ミニシンポジウム 長浜バイオ大学京都キャンパス(京都)	
121	寺澤優	自由廃業運動は公娼制度に何をもたらしたか—山根正次を中心に—	2022年9月9日	Antitled 友の会研究大会、立命館大学(京都)	
122	宮下祥子	内灘闘争再考—知識人の論議と社会参加を軸に	2022年12月16日	成城大学グローバル研究センター主催研究会 戦後基地闘争の『跡地』をめぐる学際的比較研究:内灘と砂川、於)成城大学(東京)	
123	宮下祥子	知識人の「内灘」参加—内灘試射場設置および試射場返還をめぐる	2023年2月17日	日本現代思想史研究会 於) zoom	
124	宮下祥子	内灘闘争と知識人	2023年2月24日	立命館大学人文科学研究近代日本思想史研究会例会 於)立命館大学(京都)	
125	古文英	異姓養子論と日本儒学思想—大橋訥庵の異姓問題を中心に—	2022年10月29日	2022年度日本語教育と日本学国際シンポジウム 教育部外語教学指導委員日語分委員会、於)オンライン開催	
126	古文英	『異姓不養』論と日本の儒学思想	2023年1月13日	日韓合同日本研究セミナー、於)韓国東西大学(韓国釜山)	
127	古文英	幕末の『新陽明学者』と明清儒学	2023年3月28日	東アジア共同研究学術大会、於)高麗大学(韓国ソウル)	
128	十河和貴	戦前期日本の政治構造と議会主義政治の限界—海外への経済進出と国内政治のリンケージ—	2022年7月12日	第46回立命館アジア・日本研究機構「AJI 最前線セミナー」 於オンライン開催(ZOOM)	
129	十河和貴	Japan' s Political Structure and the Power Struggle over During the Saito Cabinet Period (1932-1934)	2022年12月3日	アジア太平洋カンファレンス2022(20th Asia Pacific Conference)、 於立命館アジア太平洋大学(APU)(別府)	
130	十河和貴	Correlation between the Development of Party Politics and the Structure of Colonial Rule in Modern Japan: Focusing on Taiwan in the 1920s	2023年2月11日	Fourth International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development Beyond the COVID-19 Era in Asia: Young Researcher' s Engagements (第4回国際コロキアム)	
131	長澤麻子	ベンヤミンと詩の言語 Die Aufgabe des Übersetzers の成立「環境」をめぐる	2023年3月	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか—ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス	
132	柿木伸之	言語の死後の生—ベンヤミンの「翻訳者の課題」とその継承	2023年3月1日	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか—ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス	
133	西山雄二	フランスにおける「翻訳者の使命」の受容—アントワヌ・ベルマン	2023年3月1日	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか—ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを	

		による純粋言語と翻訳不可能性の解釈をめぐって		中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス	
134	亀井大輔	ベンヤミンを(翻訳)するデリダ—「バベルの塔」について	2023年3月1日	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか—ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス	
135	宮崎裕助	永遠の乖離としての純粋言語—ポール・ド・マンのベンヤミン「翻訳者の使命」読解	2023年3月1日	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたか—ベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」、立命館大学 衣笠キャンパス	
136	亀井大輔	近さと遠さ—コロナ禍における現前性の問題	2022年10月1日	シンポジウム「人文・社会科学の意義を見つめ直す—感染症、戦争、災害等の「グローバルなリスク」に立ち向かう〈知〉のために」立命館土曜講座、オンライン	
137	鈴木崇志	価値と他者はどのように経験されるか—現象学的方法論	2022年11月1日	2022年度関西倫理学会シンポジウム「現象学と倫理学」、大阪大学豊中キャンパス	
138	西田彰一	寛克彦の国体論の批判的分析—大正期国体論の解明にむけて	2022年11月5日	東アジア日本研究者協議会第6回国際大会(国際学会)於)北京日本学術研究センター(中国・zoom)	
139	西田彰一	国体論者による「日本的キリスト教」—寛克彦のキリスト教論	2023年3月4日	日文研共同研究会横断型ワークショップ「多極化する世界における「普遍的価値」の解釈—日本とキリスト教を事例に」於)国際日本文化研究センター(京都)	
140	西田彰一	「廃都美」の「発見」の系譜をさぐる試み—会津八一の奈良論を起点に	2023年3月22日	令和4年度第5回「近世・近代の思想研究会」於)奈良県立大学ユーラシア研究センター(奈良)	
141	長島修	北支那製鉄の成立と崩壊—大東亜共栄圏下の鉄鋼業—	2023年1月20日	近代日本思想史研究会第3回研究会 於)立命館大学(京都市)	141

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2022年9月	5名	
2	中世関連文化研究会	衣笠キャンパス	2023年3月	4名	
3	ワークショップ「パルクール研究の新たな地平:2020 東京五輪インパクトへの『対抗軸』を考える」	オンライン(ZOOM)	2022年8月	30名	
4	Two Day Online Workshop -- WWII in the Asia-Pacific: Border Crossing Mobilities	オンライン	2022年7月	70名	University of Wollongong, The University of Notre Dame Australia, Asian Studies Association of Australia
5	第1回グローバル・リスク研究会	衣笠キャンパス	2022年5月24日	10名	
6	第2回グローバル・リスク研究会	オンライン(Zoom)	2022年12月15日	10名	
7	International Workshop for Younger Researchers "Science, Technology and International Society"	Ritsumeikan University, Kinugasa Campus.	16-Jan-23	10名	人文研重点プログラム、科学研究費基盤研究(B)、立命館大学科研費獲得推進プログラムなど
8	International Symposium The Governance of Science and Technology, and International Cooperation"	Ritsumeikan University, Kinugasa Campus.	17-Jan-23	110名	人文研重点プログラム、科学研究費基盤研究(B)、立命館大学科研費獲得推進プログラムなど
9	国際刑事司法における変革的正義第一回研究会	オンライン	2022年4月	10名	
10	ラウンドテーブル C「越境政治の国際比較:出移民と送出国家のトランスナショナリズム」	京都大学	2022年6月	50名	日本移民学会第32回年次大会のラウンドテーブル企画として実施
11	「越境政治の国際比較」第1回研究会	キャンパスプラザ京都	2022年7月	6名	立命館大学人文科学研究所
12	「越境政治の国際比較」第2回研究会	立命館大学衣笠キャンパス	2023年2月	9名	立命館大学人文科学研究所
13	立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力協定 締結記念カンファレンス「モビリティーズとデジタル革命」	衣笠キャンパス	2022年12月	30名(対面)	立命館大学「国際共同研究促進プログラム」研究プロジェクト「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する〈新たな社会理論〉の構築」
14	立命館大学と南オーストラリア大学との研究協力協定カンファレンス『「モビリティーズとデジタル革命」の新たな社会理論』	衣笠キャンパス	2023年3月	100名(Zoomと対面同時開催)	立命館大学「国際共同研究促進プログラム」研究プロジェクト「ツーリズム・モビリティとデジタル革命に関する〈新たな社会理論〉の構築」
15	第1回グローバル・リスク研究会	衣笠キャンパス	2022年5月	10名	

16	第2回グローバル・リスク研究会	オンライン (Zoom)	2022年12月	10名	
17	International Workshop for Younger Researchers "Science, Technology and International Society"	Ritsumeikan University, Kinugasa Campus.	16-Jan-23	10名	
18	International Symposium: The Governance of Science and Technology, and International Cooperation"	Ritsumeikan University, Kinugasa Campus.	17-Jan-23	110名	
19	メアリー・ホークスワース『ジェンダーと政治理論』オンライン書評会	オンライン	2022年7月	20名	科学研究費基盤研究(B)「家族主義レジームの変容に関する国際比較研究」
20	千葉眞『資本主義・デモクラシー・エコロジー』、オンライン合評会	オンライン	2022年8月	120名	科学研究費基盤研究(A)「資本主義と民主主義の両立(不)可能性の政治理論的研究」
21	坂井晃介『福祉国家の歴史社会学』オンライン書評会	オンライン	2022年10月	25名	科学研究費基盤研究(B)「家族主義レジームの変容に関する国際比較研究」
22	サラ・ロレンツィーニ『グローバル開発史』オンライン合評会	オンライン	2022年11月	20名	科学研究費基盤研究(B)「家族主義レジームの変容に関する国際比較研究」
23	宮本太郎編『自助社会を終える』オンライン合評会	オンライン	2022年12月	50名	科学研究費基盤研究(B)「家族主義レジームの変容に関する国際比較研究」
24	山崎望『民主主義に未来はあるのか』	オンライン	2022年12月	140名	科学研究費基盤研究(A)「資本主義と民主主義の両立(不)可能性の政治理論的研究」、同・基盤研究B「家族主義レジームの変容に関する国際比較研究」、同・基盤研究(C)「ポスト代表制」時代の民主主義、同・基盤研究(C)「自由民主主義の危機とデモスの再検討」
25	金成垣『韓国福祉国家の挑戦』	オンライン	2022年12月	25名	科学研究費基盤研究(B)「家族主義レジームの変容に関する国際比較」、同・基盤研究(B)「多様化する社会における福祉体制の動態」
26	Dynamics of Welfare Regime in diversifying societies: Theory Development through Comparative Studies in Japan, Korea and Taiwan	ハイブリッド(対面会場は、衣笠キャンパス)	2023年3月	20名	科学研究費基盤研究(B)「多様化する社会における福祉体制の動態」
27	『にんげんをかえせ』上映会及びシンポジウムー10フィート運動と戦争体験の「継承」を考えるー	立命館大学平井嘉一郎記念図書館	2023年3月	15名	
28	ダリン・テネフ講演会「指標性が持つ様相の謎ーデリダとハイデガーにおける指標についての読解」	衣笠キャンパス	2022年11月	対面20名 +オンライン20名	科学研究費基盤研究(B)、立命館大学人文科学研究所
29	エマヌエーレ・コッチャ講演会「All we need is love」	衣笠キャンパス	2022年11月	50名	立命館大学人文科学研究所
30	シンポジウム「翻訳者の使命はいかに継承されたかーベンヤミン「翻訳者の使命」と20世紀フランスを中心とするその受容」	衣笠キャンパス	2023年3月	30名	科学研究費基盤研究(B)、立命館大学人文科学研究所

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	ウェルズ恵子	《書評》米国 抑圧下の「奇想の宇宙」：後藤護著『黒人音楽史』中央公論新社	日本経済新聞	2023年1月14日	
2	市井吉興	アーバンスポーツ振興 五輪で注目も浸透に課題 地域の理解を得る方法探れ	都政新報	2022年4月22日	
3	川村仁子	基調講演「先端科学・技術のガバナンスー研究・開発とリスク管理の両立のためにー」	常葉大学水落キャンパス	2022年7月14日	
4	Muhammad Tri Andika	TV出演 "Tarik Ulur Koalisi Partai Politik(政党連合の綱引き)"	チャンネル: BTW	放送日時: 2023年2月6日月曜日 21:00から(西ジャワ時間)	
5	Muhammad Tri Andika	TV出演 "DPR dan Partai Politik dapat Kepercayaan & Kepuasan Paling Rendah(国会と政治政党は最も低い信頼と満足度に)"	チャンネル: TV One	放送日時: 2022年12月30日	
6	井上充幸・丸山裕美子	尾張藩蔵書 裏も希少	中日新聞 1面	2022年7月18日(月) 朝刊	
7	井上充幸・丸山裕美子	明の医学書 希少裏打ち	東京新聞 9面	2022年7月21日(木) 夕刊	
8	井上充幸	「紙背文書」隠れた歴史読解	中日新聞 5面(文化・芸能)	2022年11月4日(金) 夕刊	
9	越智萌	悲しみを乗り越える 法の力ーロシア・ウクライナ紛争の後処理を考えるー	第8回待兼山会議	2023年3月18日	

10	越智萌	戦争犯罪の悲しみを超える司法の力—国際刑事司法の発展と未来	学びのプラットフォーム MIRAI	2023年3月14日
11	越智萌	侵攻に見る、現実と規範	朝日新聞 耕論	2023年2月20日
12	遠藤英樹	人文・社会科学におけるモビリティ研究——「オフショア化する世界」のリスクに立ち向かう知	立命館大学土曜講座	2022年10月
13	遠藤英樹	観光とメディアのリミックス——情動を形成する観光＝メディアの精神分析	二松学舎大学人文学会 第125回大会	2022年12月
14	遠藤英樹	観光のリミックス、メディアのリミックス	中国東北大学外国語学院講演会	2023年3月
15	遠藤英樹	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 以後の観光のかたちとその可能性	中国東北大学外国語学院講演会	2023年3月
16	遠藤英樹	コロナ後の観光 LGBT 誘致の取り組み	産経新聞	2022年4月
17	遠藤英樹	京都力 第四部 宗教と経済	読売新聞	2022年5月
18	遠藤英樹	総合型を制する者は入試を制す	AERA 2022年7月11日号	2022年7月
19	遠藤英樹	おはよう日本	NHK	2022年8月
20	遠藤英樹	UNCOVERED アンカバード	産経新聞	2022年9月
21	遠藤英樹	UNCOVERED アンカバード	産経新聞	2023年3月
22	川村仁子	先端科学・技術のガバナンス	立命館大学土曜講座	2022年10月
23	川村仁子	基調講演「先端科学・技術のガバナンス—研究・開発とリスク管理の両立のために—」	常葉大学水落キャンパス	2022年7月
24	羽谷沙織	比較教育学とアカデミック・キャリアワーク・ライフ・インテグレーションのはざままで	比較教育学研究 三大学合同セミナー (名古屋大学、九州大学、京都大学)	2022年10月
25	越智萌	国際刑事司法 (論) の概況と展望	『現代思想』2023年1月号	2022年12月
26	前田一馬	百年前の避暑客はどこへ遊びに出かけていたのか?	『軽井沢ヴィネット』(130) 軽井沢新聞社 PP.108~109	2022年4月
27	前田一馬	昭和戦前期における旧軽井沢銀座の夏季出張店	『軽井沢ヴィネット』(131) 軽井沢新聞社 PP.110~111	2022年7月
28	石田雅芳	スローシティって?~よりゆっくりと、ていねいに、幸せが響くまちづくり~世界33か国287都市の仲間になりませんか	Webinar 前橋市長、気仙沼市長を交えた講演会	2022年2月
29	石田雅芳	Food Communication with Covid” in “Italy and Japan: the power of care, culture and ancient techniques for a sustainable future	Future Food Institute e Italian Embassy of Tokyo, Kitchen Studio SUIBA, Tokyo	2022年11月
30	安田峰俊	連載「現代中国と少数民族」④	『中央公論』連載 2022年6月号	2022年4月
31	安田峰俊	連載「現代中国と少数民族」⑤	『中央公論』連載 2022年7月号	2022年6月
32	安田峰俊	連載「現代中国と少数民族」⑥	『中央公論』連載 2022年10月号	2022年9月
33	安田峰俊	中国の白紙革命と反体制ネットユーザーの動向 (過去20年)	静岡県立大学 ジャーナリズム公開講座 第9期 第13回	2023年3月
34	安田峰俊	アカデミズムとジャーナリズムのあいだ—安田峰俊氏と語る	京都大学 人文科学研究所附属現代中国研究センター	2023年3月
35	安田峰俊	WEBの文章術	文藝春秋社内講座	2022年10月
36	谷崎友紀	シンポジウム「COVID-19 とツーリズムへの問い」発表者へのコメント	オンライン	2022年7月
37	谷崎友紀	出張キャンパス「小豆島で考える観光振興×しまづくり」第2回講演「江戸時代の旅と名所と小豆島」	小豆島ふるさと村	2022年7月
38	小関素明	災害と人文社会科学が向き合うべき課題—災害は民主政治にどのような影響を及ぼすのか—	立命館大学土曜講座「人文・社会科学の意義を見つめ直す」——感染症、戦争、災害等の「グローバルなリスク」に立ち向かう〈知〉のために ZOOM ウェビナー開催	2022年10月29日
39	寺澤優	著者インタビュー「売春した芸妓、酌婦、カフェー女給とは? 戦前ニッポン「違法」風俗の裏事情とシビアな現実」	サイゾーpremium、特集:戦前ニッポン「違法」風俗の裏事情 (https://www.premiumcyzo.com/modules/member/2023/01/post_10741/)	2023年1月
40	河原梓水	(インタビュー)「リレーおびにおん「痛みはどこから」異色の性風俗投稿誌が主導した サドマゾ「脱・変態化」の戦後」	朝日新聞、朝刊11面、	2022年7月5日
41	河原梓水	(インタビュー)「SM が生き延びるためのアプローチ: SM が犯罪になる時代で私たちはどう生きるか」	『Roca BDSM Magazine』3、カスカベキタロウ、pp.69-73	2023年1月

42	島田龍	インタビュー掲載・清水有香「よみがえる日本現代詩の先駆者「幻の天才」左川ちかの魅力」	①『毎日新聞』web版 ②全国版夕刊に「今春、初の全集 左川ちか よみがえる「幻の天才」 現代詩の先駆、魅力巡りシンポ」と題し抄出	①2022年8月28日 ②2022年9月12日
43	島田龍	インタビュー掲載・横山聡「“幻の詩人”左川ちかの輝き 昭和初期、全集で脚光 編集の立命大研究員『脱神話 同時代の傍らに』」	『京都新聞』	2022年10月17日
44	Daisuke Kamei	Jacques Derrida and Shūzō Kuki: On Contingency and Event (講演)	GIP Lectures 2023: Phenomenology, Gesellschaft für Interkulturelle Philosophie	2023年1月～2023年1月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	三枝暁子	「郷・村名初出データにみる日本中世の民衆社会」	基盤研究(A)	2018年4月	2024年3月	代表
2	住田翔子	沖縄における伝統的地理観の受容・変遷の地理学的研究	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	分担
3	川村仁子	国際的な官民連携による先端科学技術ガバナンスの研究:ナノテクノロジー分野を事例に	若手研究 (B)	2017年4月	2023年3月	代表
4	美馬達哉	脳卒中者の機能再建を可能とするアンサンブル脳刺激法の創成	挑戦的研究 (萌芽)	2021年4月	2023年3月	代表
5	美馬達哉	脳卒中超回復者の脳再構成を静的・動的磁場で誘発される脳波変調で解明する	新学術領域研究(研究領域提案型)	2022年4月	2024年3月	代表
6	美馬達哉	静磁場刺激を在宅ニューロリハに応用するために必要な基礎データの構築	基盤研究 (B)	2022年4月	2024年3月	分担
7	井上充幸	名古屋市蓬左文庫蔵『銅人シユ穴鍼灸図経』に見る17世紀東アジア文化交流史の具体相	基盤研究(B)	2023年4月	2026年3月	代表
8	越智萌	中核犯罪の「被害」に関する研究—国際刑事司法により救済されるべきは誰か	若手研究	2023年4月	2029年3月	代表
9	川口博子	紛争後アフリカにおける平和の動態:平和構築の中で発揮される地域の主体性に着目して	特別研究員奨励費	2021年4月	2024年3月	代表
10	園田節子	「越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	代表
11	園田節子	「接近する東アジアとラテンアメリカ—新たな太平洋世界の形成—」	基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	分担
12	岸川毅	「越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
13	岸川毅	「接近する東アジアとラテンアメリカ—新たな太平洋世界の形成—」	基盤研究(A)	2023年4月	2027年3月	代表
14	アンジェロ・イシ	「越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
15	岡本直美	「越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
16	李定恩	「越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
17	芹澤隆道	「越境政治の国際比較: 出国者を包摂する近現代の送出国と社会の研究」	基盤研究(B)	2023年4月	2027年3月	分担
18	遠藤英樹	グローバルなアジア世界の共生を志向するポリフォニック・ツーリズム (多声的観光)	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
19	山本理佳	現代観光におけるガイドツアーの重要性に関する研究	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
20	神田孝治	観光学3.0へ向けたツーリズム・モビリティの再考	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	代表
21	神田孝治	人の観光にかかる意思決定構造のモデル化とローカル・リビングヘリテージの維持・保全	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	分担
22	川村仁子	国際的な官民連携による先端科学技術ガバナンスの研究—ナノテクノロジー分野を事例に	若手研究(B)	2017年4月	2023年3月	代表

23	羽谷沙織	カンボジア古典舞踊ロバム・ボランの継承におけるクメール系ディアスポラの貢献	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
24	羽谷沙織	高等教育における「リバース・ジェンダー・ギャップ」現象—東南アジアの国際比較	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	分担
25	羽谷沙織	越境通学児童の実証的比較研究—国境の透過性および国民形成との関係を中心に	基盤研究(B)	2022年4月	2026年3月	分担
26	越智萌	国際刑事法における「人権基準」の法的性格と内容	若手研究	2019年4月	2023年3月	代表
27	種田博之	薬害の社会的過程の分析	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	分担
28	種田博之	薬害 HIV 感染被害者のライフストーリーから社会・心理的支援を構築する	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	分担
29	薬師寺浩之	開発途上国におけるホームステイを中核とした観光開発に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
30	薬師寺浩之	観光者の旅行行動や経験に関するネットノグラフィー調査を用いた研究	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
31	韓準祐、間中光	パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究	基盤研究(A)	2021年4月	2026年3月	分担
32	安田慎	イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	代表
33	安田慎	イスラーム経済のモビリティと普遍性	学術変革領域研究(A)	2020年4月	2025年3月	分担
34	安田慎	イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	分担
35	渡部瑞希	非言語的取引に伴う信頼関係の考察—カトマンズの観光市場タメルの宝飾商売を事例に—	若手研究	2019年4月	2024年3月	代表
36	間中光	観光からの分散・代用戦略とレジリエンスに関する研究	若手研究	2021年4月	2024年3月	代表
37	加茂利男	公教育と社会活動を通じた政治統合の日加豪3ヵ国比較研究—流動化する時代の政策対応	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
38	松田亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	代表
39	鎮目真人	公的年金制度の制度改革と脱貧困化に向けた政策立案	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
40	加藤雅俊	「家族主義レジーム」の変容に関する国際比較研究	基盤研究(B)	2021年4月	2025年3月	代表
41	日暮雅夫	批判理論からの新自由主義と権威主義との批判	基盤研究(C)	2022年4月	2025年3月	代表
42	西田彰一	戦前日本の内務省と水野錬太郎の政治思想研究	若手研究	2021年4月	2026年3月	代表
43	山口一樹	天皇制と「死」をめぐるポリティクスとしての統帥権独立論に関する研究	若手研究	2021年4月	2025年3月	代表
44	伊故海貴則	明治10年代の地域社会における多数決の規範化と近代的政治秩序の形成	研究活動スタート支援	2021年4月	2023年3月	代表
45	吉田武弘	「代表」されるべき「公議」と貴衆両院制の出發	基盤研究(C)	2022年4月	2026年3月	代表
46	亀井大輔	20世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021年4月	2026年3月	代表
47	鈴木崇志	「二人称の他者」の現象学：その形成史と現代的意義の研究	若手研究	2022年4月	2025年3月	代表
48	伊勢俊彦	日常的思考と行動の基盤の不安定化・喪失からの回復にかんする哲学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
49	花崎育代	大岡昇平文学の基礎的および総合的研究—創作ノート・草稿類を含む—	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
50	ウェルズ恵子	ラブソングの大衆歌謡化に関する研究：アメリカ世俗歌の歌詞系譜の中で	基盤研究(C)	2022年4月	2027年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	川村仁子	Japan in International Affairs	国際交流基金	2021年4月	2023年3月	研究連携者
2	川村仁子	Exploration of Academic Collaborations between Kazakhstan and Japan	立命館大学国際共同研究促進プログラム	2022年4月	2023年3月	研究分担者
3	川村仁子	ヨーロッパにおける日本と中国のパブリック・ディプロマシーに関する研究	立命館大学国際共同研究促進プログラム	2023年3月	2024年3月	研究代表者

